

運動会本番の日が近づいてきました。「運動会の本番も日頃の保育の延長です。普段通りの子どもたちの姿を見てあげてください」と、以前は、私も誇らしげに保護者の方々に語っていました。

でも、運動会（本番＝当日）は紛れもなく「特別な一日（イベント）」です。本番さえうまくいけば良いということではありませんが、できる限り子どもたちにも「できた！うまくいった！最後まで頑張った！」という成功体験を通して、保護者やご家族の方にも褒めてもらって欲しいと思っています。

そのために、子どもたちが行う「競技」や「演技」においては、成功率を98%以上となるよう入念な「詰めの作業」を行います。それは、叱咤激励して子どもたちを追い込んでいく、ということではなく、競技や演技における「距離感」や「道具の置き方」「交代の仕方」など、ややこしい部分や間違いが起きやすい部分を、シンプルにしたり、わかりやすいように修正したりします。それでも失敗や間違いが起きる子どもたちには、その子どもたちだけで個別に、丁寧に関わりながら練習します。（当日も、明らかなハプニングや失敗があれば、必要に応じて「やり直し」もします＝失敗体験で終わるより、成功体験で終わるように）

「イベントとしての運動会」＝「スッキリ感」「スピード感」「わかりやすさ」「時間厳守」

- ① 「見やすい」（座席の配置、保護者席を意識した隊形や子どもたちの体の向きなど）
- ② 「わかりやすい」（スタートに椅子、スタートの旗、マットの待機場所、勝敗の付け方など）
- ③ 「プログラムの隙間（待ち時間）が極端に少ない」（一つのプログラム終了→即撤収・即入場）
- ④ 「競技の状況がわかる」（1組ずつのスタート、回数の表示など）
- ⑤ 「良質な音質と音出しの間を開けないこと」
- ⑥ 「道具が頑丈に作られている」（予備もある、出来るだけキレイなものを使う）
- ⑦ 「予定時間に終了する」
- ⑧ 「お借りする施設（小学校など）」を大切（迷惑をかけないように）に使う  
などが挙げられます。

そして、私たち職員（スタッフ）は、当日までに、道具の出し入れ、アナウンス、音響（音出し）、プログラムの進行、補助の仕方など、入念な打ち合わせを行います。

その上で、運動会当日に最も効力を発揮するのが「インカム」です。普段の保育中も職員間の情報伝達ツールとして活用していますが、運動会当日はさらに必須アイテムです。このインカムがあるだけで、職員間の意思疎通や迅速かつ臨機応変な動きや対応が可能になります。

また、職員は当日いろんな子どもへの対応をさせていただきますが、抱っここの仕方（いきなり抱き上げない）や、導き方（無理やり参加させようとしたり、急に手を引っ張ったりしない）や、関わり方（その時の意思を尊重しながらも、あまりに時間がかかるようであれば一緒にする、手を繋いでする、抱っこするなど）など、フィールド内に出ている職員も一つのパフォーマンスであり、私たちが大切にしていることへのメッセージと捉えています。